



シモバシラの氷の華



シモバシラ

ふみの会 浜口 喜夫

わが家の庭に、親しい方からいただいたシモバシラが植えてあります。植えてある、でおわかりのとおり、シモバシラといっても、土を押し上げて伸びる氷の柱ではなくて、シソ科の多年草（草丈 70 ～ 90cm）のことです。図鑑には、日本固有種で、関東地方以西の本州・四国・九州の山林の木陰に自生する、とありますが、住宅地の狭い庭でも元気に育っています。十月ごろに、小さな白い唇形花をいっぱいつけた花穂を出して、花が終わると葉を落とし、枯れた茎だけを残して冬を迎えます。

そして初冬、気温が氷点下まで下がった早朝、枯れた茎の根もとに白いものができます。これを、霜柱に見立てたのがこの植物名の由来です。この白いものは、砂糖菓子や、ガラス細工、氷のリボン、などと様々に表現されていますが、ここでは「氷の華」と呼ぶことにします。これを雪に見立てて、ユキヨセソウ（雪寄せ草）という別名もあるそうです。それにしても、シモバシラにしるユキヨセソウにしる、花の様子や草の姿からではなく、植物本体が枯れた後にできるものから植物名がつくなんて、おもしろいですね。

この氷の華はどのようにできるのか考えてみました。初冬のシモバシラは、地上の茎は枯れても、地中の根はまだ元気で、土から水分を吸って茎へ送ります。その水の通り道が道管ですが、枯れた茎のなかの組織や道管は、ボロボロになっていて、あちこち隙間だらけ。そこを毛細管現象で水が上ってきて、その水が、茎の表皮にできた隙間をすり抜け、氷点下に冷えた外気にふれると氷の結晶になります。根からはどんどん水が吸い上げられてくるので、茎の表皮にできた氷の結晶は成長し、外に伸び広がります。こうして茎の根元に氷の華ができるのではないか、と推測しています。

日が昇って気温が上がると、早朝にできた氷の華はあとかたもなく消え去ります。また、冬本番になって地面の下がガチガチに凍ると、根が水を吸うこともできなくなって、氷の華もできなくなります。

微妙な条件がそろわないと見られない、はかない氷の華です。なお、シモバシラ以外の植物でも氷の華ができる植物もあるのですが、シモバシラほど見事なものはいないようです。

先人の夢を引き継いで

楢崎 薫（会員）



水戸市の西部、平坦地が多い当地域において、梨農家4戸が今も栽培を続けています。当家もその中の一つ。昭和36年に県の指導を受け、約20戸が農地に苗を植え付けたのがこの地での梨栽培の始まりです。当時は、背負式の噴霧器による共同防除を実施しており、農薬散布による事故も多かったため、県からは血圧測定による健康管理の指導を受けたと記憶しています。

現在、当家においては労力の配分を考え、梨の他にプラム、モモ、リンゴなど10種類の果樹を栽培しており、農作物の栽培と販売を夫婦でうまく分業しています。研修会や視察には、今も参加し、技術の向上に努めています。

今年も梅雨明け前の雨の中、果樹組合の視察研修がありました。水戸市のマイクロバスで生産者4名と市職員が同乗して、車内は仕事や世間話でにぎやかでした。視察する果樹園は2カ所、最初に伺ったのは常陸太田市の梨とシャインマスカットを栽培する農家でした。水田地帯の中、果樹園はたった1軒だけ。説明していただいたのは、次世代を担う園主の二人の息子さんでした。梨畑は、高温で水不足であるにも関わらず、周りを水田に囲まれている環境のため十分に水分のとれた樹が生育良好に見えたのが印象的でした。シャインマスカットはハウスで栽培しており、一房1キロ越えのブドウが揃って実っている様子は大変見事でした。研究熱心で説明がうまく、栽培のポイントなどを丁寧に説明していただき、販売所や販売方法などは以前訪問した時より進化しており参考になりました。

ただ気になったこともありました。水田地帯なので自作地の2倍以上の水田を請け負い、田植えや管理を一手に担っているとのこと。一人で担う作業が多いことは明らか、高負荷な状況であることを、今年就農された息子さんが、園主である父親を心配されていたことです。素晴らしい農業経営と家族農業の現実を学びました。

次に日立市の山間地、定年後に親から受け継いで5年目のリンゴ農家に伺いました。国の補助事業を受けて棚田をリンゴ園に転換した土地で、早期成園化するためにフェザー苗を用いた高密度植栽培を行っていました。

新しい化栽培技術のフェザー苗による栽培とは、長野県でいち早く取り入れ普及した栽培方法で、鳥の羽根状の枝（フェザー）を多数発生した苗を用いるのだそうです。苗木を大型ポットに植えることで、縦に伸びる根の生育を抑え、横に伸びる根の発生を促し、新芽が出ると成長する新梢に植物生長調整剤を噴霧機で10回程度噴霧する。地上部も横枝が多く発生するところが鳥の羽根（フェザー）のように見えることから名づけられたそうです。



県内ではまだまだ珍しいこの方法を用いれば、結実が早められ、庭先でもリンゴの収穫ができるのではと思いました。

また日立市では、労働力が不足する生産者に作業ボランティア制度も実施されているようで、果樹園の受け入れ側としての様子や情報も聞くことができました。

雨の中の視察でしたが、帰るころには雨も上がり、県や市の職員とは専門的な話はずみ熱心に意見交換することもできました。これは、何物にも代えがたい収穫だったと思います。久しぶりに楽しくて明るい気分になりました。

誰が付けたか この名前 ヘクソカズラ

茨城生物の会 安 昌美

私も水戸に住んで 50 年になります。県内各地の植物を観察しておりますが、水戸も植物を取り巻く環境も大きく変化しております。歳のせいか、チュウリップやネモフィラの群生もきれいですが、オケラやコウヤボウキの花にしみがあり、美しいと感じるようになりました。今回はちょっと可哀そうな名前を付けられてしまった「ヘクソカズラ」を応援し、紹介します。

ヘクソカズラはアカネ科の植物で、日本の在来種です。日本国内ほぼ全土に生育し、国外でも朝鮮半島、中国、台湾、フィリピンに広く分布するとされています。生育地も低地から山地、街中から山林と各地にみられます。名前もその特徴をよく示していますので、一度聞くと忘れません。

私も観察会ではよく利用させてもらう植物です。しかも、名前がその特徴をズバリ示すからです。まず葉をちぎってよくもみ、その臭いを嗅いでもらってから説明をしますが、すぐに反応があります。こども達もよく反応します。

誰が名前を付けたかははっきりしませんが、古い時代にはクソカズラ（糞葛）と呼ばれ、この名前は万葉集に一首あって、ヘクソカズラが他の植物に絡みついて伸びていく性質から詠われたもので、その意味は「ジャケツイバラ（サイカチの説あり）に絡みついて伸びるヘクソカズラのように、いつまでも宮仕えしたいものだ」といわれます。



臭いは写真にうつりませんが、花をみて付けられた名前にヤイトバナ（灸花）があります。こども達に説明しても分かって貰えません。今のこども達は、何か悪い事をして、灸をすえられることもないからでしょう。年配の方には分かっています。他に集まって咲く花を、笠をかぶって揃って田植えをする早乙女の美しさに例えてサオトメバナ（早乙女花）、サオトメカズラ（早乙女葛）の名があります。今は神事の田植えが時に放映されるだけになりました。明治以降に変種や新種が発表されています

が、その和名にはツツナガヤイトバナ、ハマサオトメカズラなどがあります。

臭いの成分はメチルメルカプトンとされ、腐ったタマネギの臭いがする無色の気体。天然にはある種の種実類や、チーズなどに含まれます。ヒトや動物の糞から放出され、口臭や屁の悪臭の成分の一つとされています。また、ヘクソカズラの他の生物との生存競争に有利に働いていることが考えられています。

果実は秋に黄褐色に熟し、時にリースに使用されます。他に果実には抗菌作用のある成分が含まれているそうです。実をつぶして、ひび、あかぎれ、しもやけなど皮膚疾患に効果があるといいますが、すでにあかぎれ、しもやけも遠い存在の時代ですね。

花言葉は「意外性」です。どうぞこれからも「華のある」人生を送ってください。

「バースディ・パーティ」に参加して

檜原 英千世

水戸市植物公園主催の令和7年「バースディ・パーティ」（前年まで「花の感謝祭」と言われていた）は例年通り4月29日に10団体が参加して開催され、「街を花と緑でいっぱいにする会」（以降、「街花会」）もいつものように参加しました。

植物公園は38年前（1987年）の4月29日に開園され、4年前の4月29日大温室の整備後にリニューアル・オープンをされており、4月29日はまさに植物公園のバースディに当たるとのことで、「バースディ・パーティ」とされたとのこと。



街花会では、いつものように5日程前から、花のボラティア（花ボラ）グループの皆さんが自宅で育てた花苗（41種・225個、一部は花鉢）を公園協会に持ち込み、名札と値札をつけて開催日前日に会場（植物公園芝生園）に持ち込み、準備を整えました。

開催当日は夜中の雨にも拘わらず日中は好天に恵まれ、朝一番から大勢の花好きの方々がお出かけ下さり例年通りの賑わいでした。お客様が花苗を楽しそうにあれこれ選ばれることがしばらく続き、ぼつりぼつりと来られるようになり、客足も途絶えたころがお昼前でした。おにぎり弁当を摂った後、午後2時ごろに終了となりました。

花を通してお客様と対話し笑顔にさせていただきながら、「バースディ・パーティ」が終わりました。参加された皆様、お疲れ様でした。有難うございました。

春のイングリッシュガーデン散策

笹島 隆治

去る6月3日（火）恒例の花をたずねる旅で「横浜ローズウィーク 2025」が開催されているのを聞き急遽出掛ける事となりました。当日はあいにくの雨模様でしたが、参加者は22名奉仕活動のメンバーが大半でした。

東京方面であり道路渋滞を考慮して早めの出発でしたが、高速渋滞・一般道路の混雑はなくスムーズに横浜イングリッシュガーデンに到着でした。場所は横浜市内の外れに位置しますが、住宅・工場・倉庫等のある中に作られておりウアーと驚きです。園内は自由散策で一時間余り掛けて散策して回りました。イングリッシュガーデンでありバラが主体。90%のバラの中にアジサイそしてユリが植栽されています。バラの開花最盛期であり素晴らしい見ごたえです。何とも言えない香り・そして色合いただただなるほどー!! そのバラの合間から顔をだしているアジサイと素晴らしい調和です。アジサイの色・花がまた素晴らしく、わが近所の保利苑での種類と違い、花そのものがバラの花と同じ豪華さと色合いです。ただ、すべて鉢物で植栽されていました。

雨の中での散策、時間前には全員集合しており中華街へゴ～!! 中華街は凄い人出、道路は狭く雨降りでびしょびしょです。特に修学旅行の生徒が目立ちました。無難なコース料理で、残す事なく完食です。少し足らなかったかも？

すぐ近くが山下公園のバラ花壇であり時間まで自由散策です。ローズウィークという事で公園そのものが、手入れが行き届いており見ごたえ十分でした。ただ雨でなければもっともっと楽しめたのでは？ー残念。

港が見える丘公園によりバラ花壇の見学を！そして帰路に着きました。道路事情がよく一時間余り早く到着となりました。花壇をたくさん見て回って、色合い・植栽の勉強になりました。



食虫植物について

みなさん初めまして。水戸市植物公園園芸相談員の杉浦弘真と申します。

しばらくは食虫植物のお話を中心に書いていこうと思っておりますので、お付き合いをお願いいたします。

食虫植物とはどんな植物なのか？読んで字のごとく虫を食べる植物ですが、虫だけでなくネズミなどの小動物やそれらの排せつ物、また落ち葉なども捕虫葉と呼ばれる部分で捕え自身の栄養にしていると言われています。

そのような食虫植物はどのくらいの種類があるのか？現在世界中で確認されているのは12科19属で860種ほどが知られ、園芸種を入れればそれこそ数えられないほどあります。その中で入手及び栽培が可能な種類を挙げると、ウツボカズラ・サラセニア・モウセンゴケ・ハエトリグサ・ムシトリスミレ・ムジナモ・タヌキモ/ミミカキグサなどです。

そのうち日本に自生する種類としては、タヌキモ科タヌキモ属（ミミカキグサ類も含む）、ムシトリスミレ属。モウセンゴケ科モウセンゴケ属、ムジナモ属の2科4属、種としてはおよそ20数種類が知られています。

代表的な種類をいくつか説明していきます。

モウセンゴケ

日本中に幅広く分布しており、湿原、日当たりのよい湿った崖面などでよく見かけます。茨城県内



モウセンゴケ

水戸市植物公園 園芸指導員 杉浦 弘真
では水戸市植物公園近くの小吹水源地公園で見かけたこともありますし、私の自宅のあるひたちなか市でも数か所に生育し、つい最近も散歩の途中新たに自生しているのを見つけました。

コモウセンゴケ

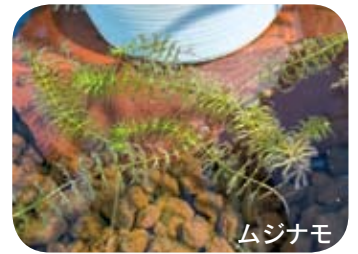
地面にロゼット状に開いた葉をもつ品種です。冬芽を作らないため寒さにやや弱い植物です。

ムシトリスミレ

花がスミレに似ているのでこの名前が付きました。高山植物に分類され、茨城近くでは群馬赤城山で見ることができます。ちなみにここではモウセンゴケも普通に見られます。

ムジナモ

水中でミジンコなどを挟み込んで捕まえる植物です。水戸市植物公園の植物館ではこのムジナモを



ムジナモ

楊枝で刺激し、葉を閉じさせている映像を随時流していますので、興味のある方はご覧ください。

タヌキモ

これも水中の植物で袋状の捕虫葉をもち、この中に水中のミジンコなどを吸い込みます。同じタヌキモ属に含まれるミミカキグサ類は水中ではなく地上で生育し、捕虫葉は地下茎に付き、土中の線虫等を捕えます。これらの種は美しい花を咲かせるので、栽培していて楽しい植物です。世界には他にもユニークな食虫植物が多々あります。次回からは園内にあるものを中心にそれらを紹介していこうと思いますので、お楽しみに。

花のボランティアだより

バラが見頃の5月上旬、水戸駅南口さくら公園のバラ花壇を新聞に掲載したいので取材をさせて欲しいと茨城新聞社から電話で依頼があり、急遽5/15(木)10:30から取材を受けることになりました。



秋のプレゼントは エキナセア と ワスレナグサ

エキナセア パラディソミックス

キク科 ムラサキバレンギク属 多年草

種まき時期 3月下旬～5月と
9月下旬～10月

特 性 開花期が長い

開 花 時 期 4月～6月 (周年開花)

耐 暑 性 強い

耐 寒 性 強い

高 さ 30～100 cm

花 色 赤・白・ピンク・オレンジ・黄・緑



日当たりと水はけのよいところで育てます。水はけが悪いと根腐れしやすくなります。春の芽出しは遅い方で6月頃から急に大きく成長します。冬期は十分寒さにあわせた方が春からの成長がよくなります。5月から6月と10月頃に月1～2回化成肥料の置き肥を行うか4～5回液体肥料を施します。病気は灰色かび病・白絹病が出ることがあります。水はけと風通しをよくして予防します。

ワスレナグサ ドワーフブルー

ムラサキ科 ワスレナグサ属 多年草

種まき時期 春と秋

特 性 開花期が長い

開 花 時 期 主に3月下旬～
6月上旬

耐 暑 性 弱い

耐 寒 性 普通

高 さ 10～50 cm

花 色 白・ピンク・青・紫



風通しの良いひなたで、水はけと水もちのよい場所で育てます。根が比較的浅く張るので、植え付けが遅くなった場合は、霜柱で持ち上げられないようべた掛け用の不織布などで霜よけをします。元肥として緩効性化成肥料を土壌に混ぜておきます。成育中にリン酸分とカリ分が多めの液体肥料を施します。肥料が多すぎると花付きが悪くなります。

講習会のお知らせ

第8回「しめ飾り作り」

日 時 12月25日(木) 10:00～

場 所 公園協会2階会議室

参 加 費 一般1000円 会員700円

持 ち 物 ハサミ 持ち帰り用の袋

募 集 20名

申込締切 11月28日(金)



会の動き (4月～9月)

- 4月3日(木) 正副会長会議①
- 4月14日(月) 令和6年度監査
- 4月23日(水) 令和7年度総会、講習会「石鹸とトピアリー作り」
- 4月29日(火・祝) 水戸市植物公園主催「バースデーパーティー」参加
- 5月8日(木) 正副会長会議②
- 6月3日(火) 花をたずねる旅 横浜ローズウィーク2025
- 6月19日(木) 正副会長会議③
- 7月3日(木) 正副会長会議④ 広報委員会118号編集会議①
- 7月31日(木) 正副会長会議⑤
- 8月8日(金) 広報委員会118号編集会議②
- 8月28日(木) 広報委員会118号編集会議③
- 9月4日(木) 正副会長会議⑥
- 9月11日(木) 会報誌と花のタネ袋詰め作業

編集後記

花のサークル117号でいただいたガーベラは今も苗のままですが、ハナビシソウは毎日花を咲かせています。今年は毎日の水管理が大変で、高温と乾燥で鉢花の管理には気を使います。表紙の浜口喜夫様、茨城生物の会の安先生、植物公園の杉浦弘真様にはご寄稿いただき、感謝申し上げます。先日、研修で訪問した日立市の果樹園は管理ボランティアに登録された方が、自分から都合の良い日に園主に連絡して作業日を決めているそうです。園からの御礼は必要ないですが、お茶は用意されるとのこと。それでも約40名以上が登録されており、作業を通しての交流が心の癒せる場となり、それを求めている参加になっているようです。私もリンゴの花が咲くころに再び訪問してみたいと景色を想像しています。

楢崎 薫

編集・発行
街を花と緑でいっぱいにする会
会長 榎原 英千世

事務局 (一財)水戸市公園協会内 〒310-0851 水戸市千波町五〇八―五九
TEL〇二九(二四四)二八九五 FAX〇二九(二四三)四八一九
印刷所 (株)きと印刷所 〒310-0913 水戸市見川町二五五八―二一
TEL〇二九(二四二)二五三五 FAX〇二九(二四二)二五五九